

入域観光客統計概況

－平成16年6月分－

沖縄県観光リゾート局

6月の入域観光客数は381,200人。前年同月比は+5.8% (+21,000人)で、同月の過去最高記録となった。
・1月～6月までの入域観光客数は2,496,700人。前年同期比は+7.0%(+162,800人)で、同期間の過去最高記録となった。

1. 空海路別入域状況

空路：367,400人	前年同月比	(+10,100人	+ 2.8%)
海路：13,800人	前年同月比	(+10,900人	+375.9%)

2. 主要航路別入域状況

東京：167,400人	前年同月比	(-1,000人	-0.6%)	構成比43.9%
阪神：74,800人	前年同月比	(+4,500人	+6.4%)	構成比19.6%
福岡：46,900人	前年同月比	(-1,000人	-2.1%)	構成比12.3%
名古屋：30,400人	前年同月比	(+1,400人	+4.8%)	構成比 8.0%

3. 概況と見通し

6月の入域観光客数の概況としては、国内客については、沖縄人気の継続や、離島志向の高まりにより本土-離島直行便が好調に推移したこと等の要因により、国内客全体としては前年同月の実績を上回った。

外国客においては、SARSやイラク戦争の影響を受けて低迷した昨年同時期と比較すると対前年比で大幅な増加となっており、特に海路においては、平成14年6月の実績と比較しても+18.2%と大幅に増加するなど、外国客総数でも3.5%の増加となっている。

以上のことから、入域観光客数は前年の実績を上回り、同月の過去最高記録となった。

今後の見通しとしては、国内客については、夏休み期間の予約状況が好調なことや、10月から12月にかけての修学旅行生の入込人数が昨年より増加する予定であることから、引き続き増加することが予想される。

外国客については、空路については高雄-那覇間のチャーター便の運航期間の延長や、台北-那覇間の臨時便の運航が好影響を与えることが予想される。海路については、定期クルーズ船の予約状況が好調であることから今後も増加することが予想される。

この結果、国内客、外国客ともに増加が見込まれ、入域観光客数は当面は好調に推移するものと思われる。

担当：観光企画課 上原
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 昨年6月は海外からの振り替え需要が好影響を与えたが、今年はその反動から昨年を若干下回る結果となった。
- 国内旅行では沖縄が好調であり、8月はホテルの部屋が不足している状況である。

大阪事務所 (阪神地区)

- スローライフ、癒しを求める消費者から支持されたことにより入域増となった。本島、離島ともに人気が高く、ファミリー層を中心に引き続き好調を維持する見通しである。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 好調な海外旅行との競争や、全九州高校体育大会の開催、福岡県内で開催されるイベントの準備期間であることなどの要因により入域減となった。
- 7月から9月の九州・福岡の観光市場は、国内外の旅行商品ともに好調に推移するものと予測されており、沖縄への予約状況も7月中旬までは好調である。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- JAL便については、前年に比べ便減っているため乗客が減少している。一方、ANAについては、割引の実施などにより利用者が増加しており、今回の増客につながった。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 北海道発の旅客数については、他地域と比較すると沖縄だけが好調のようであるが、その要因の一つとして、TV等による沖縄の露出が高いことが考えられる。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- クルーズ船の販売状況は秋口まで好調である。
- 高雄-那覇間のプログラムチャーター便が6月下旬から開始されたことにより、これまで特に席のとりにくかった台湾南部地域の利用者の利便性は増したが、上海への乗り継ぎ客の増加に伴い、依然として座席は供給不足の状態が続いている。
- 7月からは台北-那覇間の臨時便も予定されているが、入域客の増加につなげるためには、航空路線の拡充が必要である。

韓国事務所 (韓国地区)

- 沖縄への送客は、パッケージ商品等の販売が142人、ハネムーンでの送客は11組22人となった(ソウル所在主要旅行社30社の実績による)。
- 商品価格の面でグアムやハワイ、東南アジア方面と比べて競争力が弱いことや、リゾートホテルの確保が困難なため、集客に苦戦している。